

九重町立	東飯田小学校	令和6年 月 日
------	--------	----------

確認・検証・改善【 1 回目】	8月28日(水)実施
-----------------	------------

【学校の教育目標】	確かな学力を備え、協働し自ら考え行動する児童の育成～学ぼう・伝えよう・繋がろう～
-----------	--

(評価 4:100%以上 3:80%以上100%未満 2:60%以上80%未満 1:60%未満 ※%は達成率)

【育成を目指す資質・能力】	相手や目的に応じた表現力 主体的に学ぶ力
---------------	----------------------

重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標	担当
【知識及び技能の習得】 基礎基本の知識と技能を身に着ける「学ぼう」	○ 国語・算数の単元末テストの「知識・技能」の領域での標準期待値を超える児童の割合70%以上	○ 個に応じた少人数指導の実施	○ 全教職員で算数・国語の単元末に個に応じた少人数指導を実施する。	外山・山元・伊藤・松成
		○ ドリルタイムの複数指導の実施	○ 全教職員で週2回のドリルタイムに、実態に応じ、ICTも活用した算数・国語の指導を実施する	
		○ 家族読書の推進	○ 学期に1回ノーマメディアデーを設定し、配信メールで周知し、家族で読書を行う。	
		○ 静かな家庭学習の時間の設定	○ ノーマメディア週間では、1日1時間以上メディアを消す	
【思考力・判断力・表現力の育成】 自ら考え、表現する力の育成「伝えよう」	○ 「ペア学習やグループ学習の中で、相手に伝えるように考えて、自分の考えを言うことができた」のアンケートで、児童の肯定的評価80%以上	○ 考えを伝える場の保障	○ ペア学習やグループ学習の場を1日1回以上実施する。	柴田・藤野・高瀬・楢原
		○ 音読への意欲の向上	○ 保護者は、週1回以上子どもの音読に向き合って聞く時間を持つ。	
		○ 公民館活動での、児童の承認・認知の実施	○ 公民館主事が毎週水曜日、公民館での行事体験や工作などの活動で、スタッフに認知、賞賛の声かけをお願いし、アンケート調査を実施する。 礼儀正しい言葉遣いの指導をする	
【学びを人生や社会に生かそうとする】 自主的に行動し、主体的に学びに向かう態度	○ 「学校や家庭で自分で考えて学習することができた」の児童アンケート(4年生以上)で、肯定的評価50%以上	○ 児童を主体とした授業改善	○ 各教科・領域で学期に1回以上協調学習に取り組む。	平井・貝ヶ石
		○ 高学年で自主学習に取り組む	○ 月に1回に「自主学習」を取り入れる	
		○ 家庭での学習習慣を定着させる	○ 家庭学習の時間を決めて取り組ませる。	
		○ 公民館活動での、児童の主体的な活動の場をつくる	○ 活動内容を児童とともに考える	

取組指標に対する取組状況の確認		達成指標に対する達成状況の確認		検証	評価	改善方法
実施率	取組状況(エビデンス)	達成率	達成状況(エビデンス)			
75%	職員アンケートによる肯定的評価			・基礎基本の学力の定着にむけた達成指標・取組指標であり、目標にはわずかに届かなかったが、今後の課題が明らかになり、指標としては妥当であったと考える。 ・家庭において親子で読書をする機会を作ることには定着しており、ふれあいの良い機会となっている。	3	○ 個に応じたきめ細やかな指導ができるよう、これからも定期的に支援体制表を見直ししていく。 ○ 算数では、レイネステストを実施し、個のつまずきを把握して指導に生かす。 ○ 単元末に少人数指導の時間を確保するために学習計画を見直し、指導に入る職員に事前に伝えておく。
87.5%	職員アンケートによる肯定的評価	国語 99.8%	国語 69.9% 1年生 92.1% 2年生 65.3% 3年生 58.5% 4年生 62.5% 5年生 65.5% 6年生 75.9%			
89.8%	保護者アンケートによる肯定的評価	算数 98%	算数 68.6% 1年生 100% 2年生 60.0% 3年生 76.9% 4年生 41.0% 5年生 65.6% 6年生 82.7%			
86.4%						
100%	職員アンケートによる肯定的評価			・相手意識を持たせるコミュニケーション能力育成のための指標としては妥当であったと考える。さらに意識を高めるため、授業以外でも考えを出し合う機会を設ける。また、達成指標を4評価に絞って検証する。	4	○引き続き、ペア・グループ学習の場を設定していく。 ○帰りの会等で一日のがんばりや友だちのいいところを伝えあうなどし、思いを伝えることのハードルを下げる。
83.1%	保護者アンケートによる肯定的評価	児童アンケートによる肯定的評価 90.1%	1年生 100% 2年生 100% 3年生 92.9% 4年生 76.5% 5年生 87.0% 6年生 86.7%			
57.1%	職員アンケートによる肯定的評価			自主学習があまり実施できていない状況で、児童の肯定的回答が高いのは、「宿題に自力で取り組んだ」と児童がとらえたためと考えられるので、アンケートの質問内容を「学習する内容を自分で考えて」に変更する。	4	○授業研を実施し、研修会を受けての取り組みを各学年で行う。 ○自主学習のワークシートやモデルを作成しハードルを下げる。児童の実際の取り組み(プリント)を掲示し、意欲付けを図る。
33.3%	職員アンケートによる肯定的評価	児童アンケートによる肯定的評価 87.1%	1年生 100% 2年生 91.7% 3年生 78.6% 4年生 76.5% 5年生 82.6% 6年生 93.3%			
75.9%	保護者アンケートによる肯定的評価					
100%	運営委員会と職員会議で教頭から毎月提案された	111.1%	4月 58.3% 5月 41.7% 6月 66.7% 7月 91.7% 4~6月 55.6% 4~7月 64.6%	・年休取得を意識させる指標として妥当であったと考える。	4	・年休が取れていない職員が固定化しているため、面談などを通してストレス過多とならないよう見守る。
100%						

学校関係者評価 (8月1日)	
考察	評価
・ノーマメディアは学校からまた家庭教育部からの積極的な声掛けにて一人一人が気に掛ける意識づくりができてよいと思う。TVを消したり携帯から離れるというのなかなか難しいけど、ほとんどの人が時間の確保、過ごし方が定着しているのよいと思う。 ・放課後チャレンジ教室では、季節ごとの行事体験や昔からの伝統や地域の特色などを生かした工作などを取り入れ、制作に生かしています。子どもたちとともに作り上げていく中になって、思考力や創造する力も養っていると考えます。子どもたちは一生懸命、中には集中できない子供もいますが、声をかけやる気を出させます。	
・ほとんどの人が取り組めており、よいと思う。音読の宿題は親と子に限らずだれかと向き合っていないと成り立たないので、向き合う時間を持っているのよいと思う。 ・約40名近い子どもたちが宝っこ夢フィールドに参加していますが、まじめに取り組む子供もいる中に、大きな声を出して注意しても聞かない子供や、立ち回る子ども、1対1の支援がいる子供と、なかなかまとめていくということ、大変です。言葉遣いも、目上に対してなど全くできていない子供たちが多く中において、スタッフ一同、一人一人に寄り添い前向きな誉め言葉で指導しています。子どもたちはそれぞれにがんばっていると信じています。	
・家に帰って宿題に取り組むという形が自ら進んでまたは家族の声掛けにて行っているのがわからないが、家庭でやっている。やらなければいけないという気持ちを持った人が多かったのではないと思われる。	
・学校として、しっかりと大切な部分を教育しているのだな～と感じています。育成協の行事で1泊2日のプログラムや朝から夕方までの行事を計画し実施していますが、団体行動の大切さはしっかりと学校で教育されているようで、私たちからそんなに注意する場面はありません。	

【働きやすい環境づくり】 働きやすい環境づくり	○ 毎月1日分以上年休をとる職員50%以上	○ 業務改善の推進	○ 毎月1回、運営委員会の中で労働安全衛生委員会を催し、超勤時間を把握する。 ○ 月末に翌月の年休予定を立てる。	渡辺・吉田

100%	運営委員会と職員会議で教頭から毎月提案された	111.1%	4月 58.3% 5月 41.7% 6月 66.7% 7月 91.7% 4~6月 55.6% 4~7月 64.6%
100%			

				・年休取得を意識させる指標として妥当であったと考える。	4	・年休が取れていない職員が固定化しているため、面談などを通してストレス過多とならないよう見守る。

--	--